

2002年8月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、ユーラシア大陸上で波列状の偏差分布が5月以降明瞭に見られ、ヨーロッパ北部、中央シベリアからモンゴル付近にかけては東シベリアでは正偏差、西シベリアからカスピ海にかけては中国東北部から華南にかけては負偏差となった。また、ヨーロッパ南部から西アジアにかけては負偏差となった。アメリカ東部から大西洋にかけては7月に引き続いて正偏差となった。

対流活動は、フィリピンからその東海上にかけての対流活動域は、平年よりやや南下し、10°N 付近に位置した。一方、インド洋赤道域からインドネシアにかけて対流活動が平年より不活発となった。アジア・モンスーン域の対流活動はほぼ平年並で、平年よりやや西寄りとなり、6月、7月と続いた東寄り傾向は見られなかった。

200 hPa 速度ポテンシャルの分布図では、太平洋西部の大規模発散域は、先月に引き続き平年より10°程度東に位置した。これは、対流活動がインド洋赤道域からインドネシアにかけて平年より不活発、太平洋西部で活発となったことと対応している。

SOI (南方振動指数) は-1.2となり6か月続けて負

の値を記録した。

世界の天候

① 北日本から華中の多雨

中国南部では洞庭湖で洪水が発生するなど、6月以降の大雨による死者が1000人以上と伝えられた。

② モンゴルからイランの高温・少雨

モンゴルでは森林火災の被害が報じられた。

③ 華南からインドシナ半島の低温

④ ヨーロッパ北部の高温・少雨

⑤ ヨーロッパ中部からモロッコの低温・多雨

上旬から中旬にかけ、ヨーロッパの広い範囲で大雨となり、大きな被害が報じられた。

⑥ トルコの多雨

⑦ 紅海周辺の高温

⑧ 米国東部の少雨

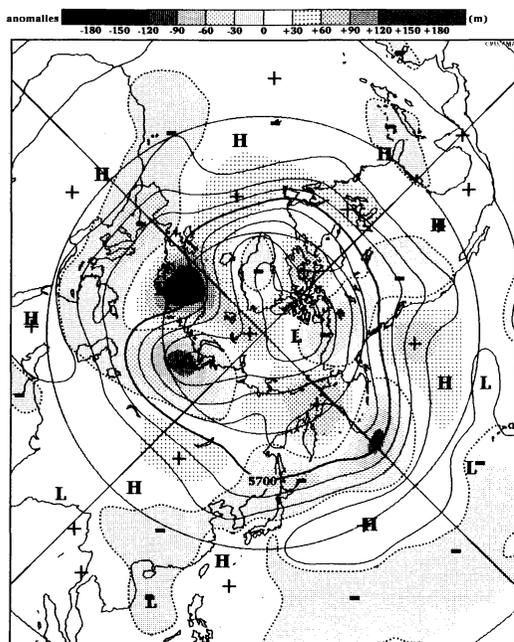
⑨ 北米西部の少雨

米国オレゴン州など西部を中心に干ばつや森林火災の拡大が伝えられた。

⑩ メキシコからベネズエラの高温

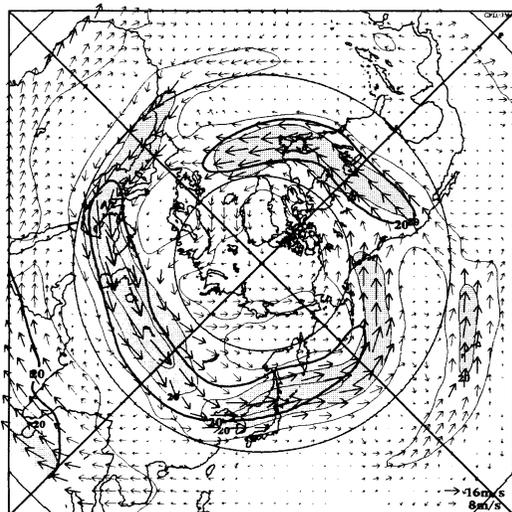
⑪ アルゼンチンの多雨

(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 川崎 孝)



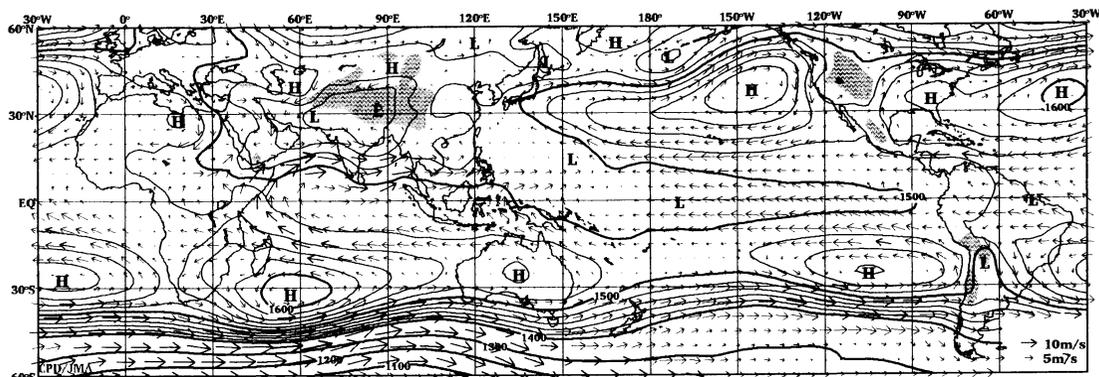
2002年8月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は30 m, 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。

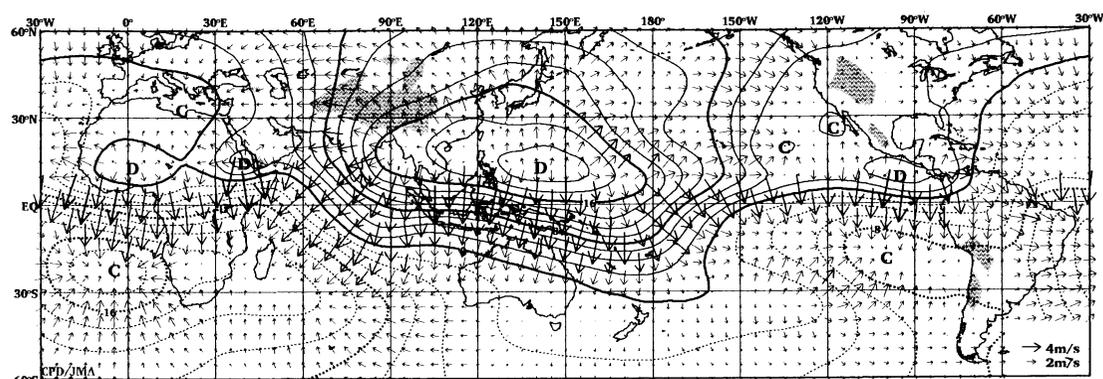


2002年8月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

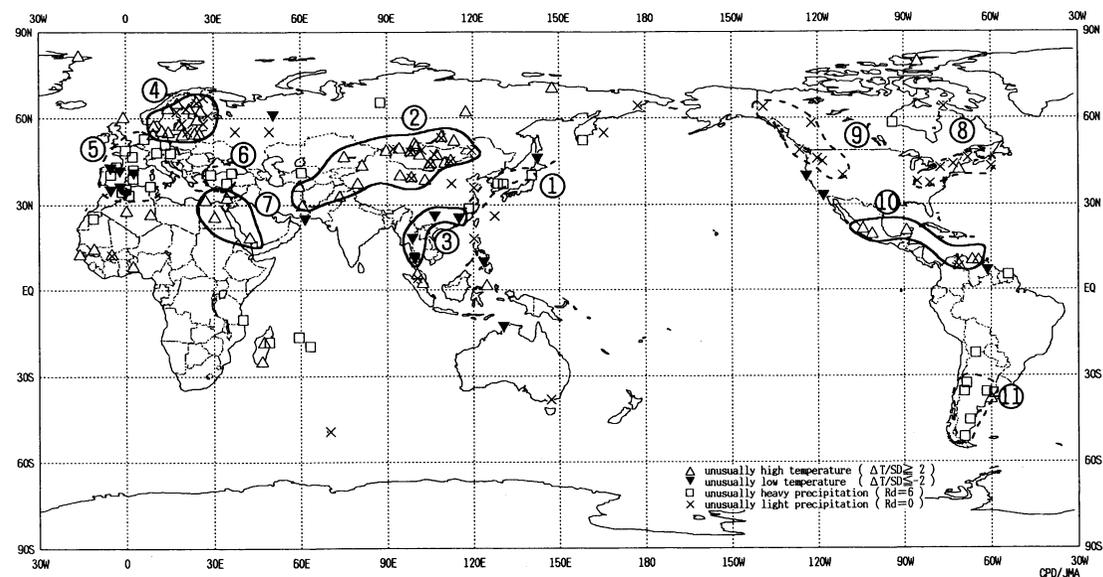
等値線間隔は10 m/s, 陰影部は20 m/s 以上, 太実線で囲まれた領域は平年の20 m/s 以上の領域を示す。平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2002年8月の月平均850 hPa高度及び風ベクトル 等値線間隔は20 m (1400 m までは100 m)



2002年8月の月平均200 hPa速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



2002年8月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.